タイムトラベラー養成講座 4 時間目

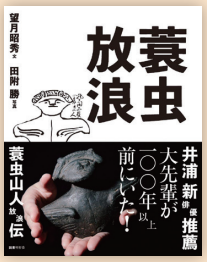
未来考古学

望月昭秀さん

2021年3月14日

望月昭秀

MOCHIZUKI Akihide



蓑虫放浪　国書刊行会、2020

一九七二年、登呂遺跡という弥生の遺跡で有名な静岡県静岡市生まれ。ニルソンデザイン事務所代表。書籍の装丁や雑誌のデザインを主たる業務としながら、出来心で都会の縄文人のためのマガジン『縄文ＺＩＮＥ』を発行し編集長をつとめる。著書に『蓑虫放浪』（国書刊行会、二〇二〇年）、『縄文人に相談だ』（国書刊行会／文庫版は角川文庫、二〇二〇年）など。現代の縄文ファン。

1 縄文ブームと未来考古学

藤岡　望月さんといえば『縄文ＺＩＮＥ』という縄文のフリーペーパーをずっと作られていて、昨今の縄文ブームの火付け役としても注目されている方です。『縄文ＺＩＮＥ』のすごいところって、考古学ですよ～古いものですよ～みたいな感じじゃなくって、縄文とシティポップなカルチャーとの融合みたいな、徹底的に現代目線だったり現代のエッセンスを入れ込んでいるところだと思います。最近の映画とか音楽とかを縄文と掛け合わせるみたいなことをやられていて、それ自体が時代を超えた視点でありタイムトラベル的です〔図版1〕。

今回のテーマは「未来考古学」ということでお願いしたいと思っています。『縄文ＺＩＮＥ』の中のコーナーとして、もう一〇回ぐらいやられていますよね。

望月　そうですね、二〇二一年に出した一二号で一〇回目まで行きましたね。

藤岡　半ページとかの小さいコーナーなんですけど、すごく広がりがあるというか。全部面白いんですが、あの回が特に面白かったです。ペットボトルとか車のエンブレムとか傘とかを考古学的に考察するみたいな（七号、八号、一一号に収録）。

望月　京都の芸術祭みたいなところであるアーティストがやっていた展示がヒントになりました。考古学には実測図っていうものがあって、遺物とか出てきたものを線画で図面にしておくものですが、それを考古学者とアーティストが組んで掛け軸に

〔図版1〕

しているという作品があって、面白いなと思って。ペットボトルなんて今は飾るようなものではないですよね。

藤岡　ゴミというか、身近にあって当たり前のものですよね。

望月　むしろ環境破壊のシンボルみたいになっていたりするものを掛け軸に描くというのは、すごく面白いなと。それをもう少し発展させて、もし未来の考古学者が現代のものを発掘したら、どういうふうに考察するんだろうなっていう企画を思いついて。それをなるべく考古学的な雰囲気を持たせながらやったらどうなるかなと思いました。

藤岡　これがめちゃくちゃ興味深くて。ペットボトルの回で、こうまっすぐなタイプと、ちょっとくびれているタイプがあるよねっていうことが書いてあるんですけど、まっすぐが男性、くびれてるほうが女性を表しているのではないだろうかみたいに考察されていて、おもしろい～ってなりました。

望月　間違えてるって（笑）。

藤岡　違うよ違うよ、ってなった。

望月　現代人の僕らから見ると、あー違う違うよって。志村うしろうしろ、みたいな。それもまたいいんですよね。

藤岡　傘とかも普通にさすんじゃなくて、曲がっているところがかけやすそうだからということで木とかにかけて、逆さまに開いた中に果実を入れるんだみたいなことが書いてあって、違う違うって。

望月　「それが有力な説となっている」とか。

藤岡　すごい違うよってなるし、確かに私たちが縄文を見る時の考察もこれぐらい違うというか、誤解があるんだろうなって思いました。フィンランドのドキュメンタリー映画で、『10万年後の安全』という作品、知ってます？

望月　見てはいないんですけれども、名前は。

藤岡　原子力発電の核のごみですね、放射性廃棄物。発電した後にエネルギーを使った後、ゴミとして出たものを処理することが現代の技術ではできなくて、それを保存しておかなきゃいけないんだけれど、完全に安全になるまで一〇万年かかると言われていて、すごく大きいところに厳重に隠してあるんです。それを一〇万年後の人類、一〇万年後までの人たちが見た時に、ちゃんと危ないものとして扱ってくれるかっていうことを考えている人たちのドキュメンタリーなんですね。そこにドクロマークとか「ダメ、これ触らないでね」みたいなマークを付けたら、逆に宝物みたいに思ったりするかもしれないし、英語が一〇万年後に今のまま通じるとも全然限らないじゃないですか。だから絵でもやばいし何も言わないのもやばいし、どうしたら未来の人たちにこれが危ないですよってわかってもらえるんだろうって、研究者たちがずっと真剣に話し合っていて。一〇年前ぐらいに見たんだけれどもずっと心に残っています。そういうふうに一〇万年後の人たちとコミュニケーションをとろうと考えている人たちがいるのも面白いし、自分の身近なものでもあるから、そこまでまずいものなんだって改めて実感した